

# 男性から女性の性別変更、なお高い壁 識者「国会で冷静に議論を」

社会 | 速報 | 事件・事故・裁判 | ダイバーシティ

毎日新聞 | 2024/7/10 19:45 (最終更新 7/10 19:45) | 有料記事 English version 916文字



性別変更を巡る高裁決定を受け、取材に応じる代理人の南和行弁護士（左）ら = 2024年7月10日午前10時31分、中村清雅撮影

戸籍上は男性で、女性として暮らしているトランスジェンダーの当事者が性別の変更を求めた家事審判の差し戻し審で、西日本の高裁は10日、変更を認める決定を出した。

願いがやっとかなった——。トランスジェンダーの申立人の性別変更を認めた10日の高裁決定は、手術なしで男性から女性となる道を開いた。ただ、身体の構造上、「女性から男性」に比べて「男性から女性」への性別変更は、なおハードルが高いとみられる。

「社会的に生きている性別と、戸籍の性別のギャップによる生きにくさから解放されることを大変うれしく思う」。申立人は、代理人の南和行弁護士を通